

太宰管内志

豊後之八

國埼郡上

一七二三番

和書門			
二九六〇	二六〇	二八	八
號	函	架	冊

内閣文庫			
三九〇二	二八	二	五
號	冊	架	冊

内閣文庫	
番號	和 29601
冊數	82 (81)
函號	176 44



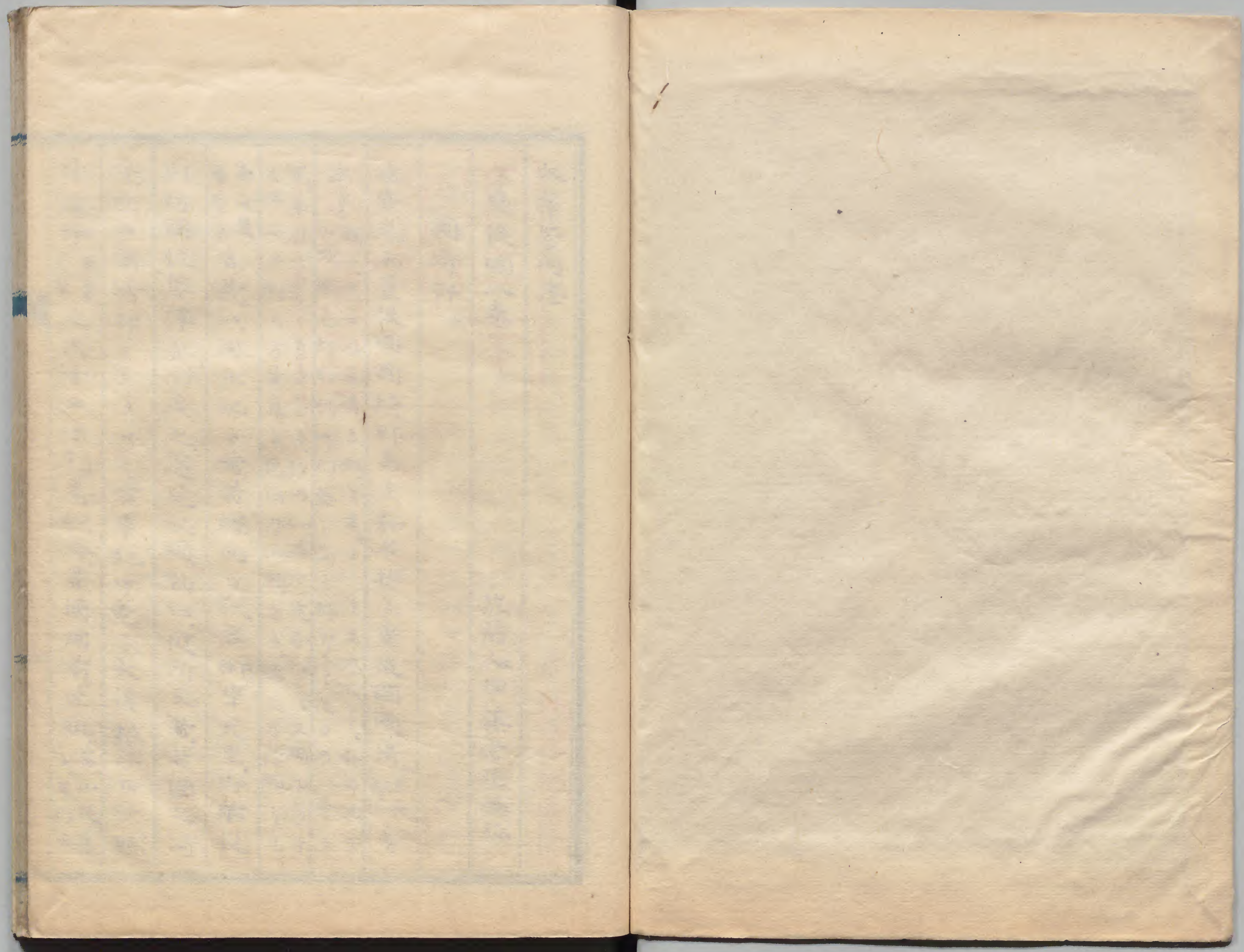
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





大宰管内志

豊後國八卷

筑前人伊藤常足編録

明治十二年癸卯

國埼郡上

延喜式に豊後國國埼郡あり。和名抄に豊後國國埼君佐と

あり。國ハクニの二音に假して書るるとも思へし。和名抄に

假り多ればと云ふも。訓郡訓世郡勢とあり。郡ヤもクの一音に

も唱ふと例ハ万葉集に隱國乃泊瀬とも。隱久乃始瀬とも

あり。是名義ハ風土記に昔者纏向日代宮御宇天皇御船後

周防國佐婆津發而度之。遙覽此國。勅曰。彼所見者若國之埼

乎。因云國埼郡とあり。さて古事記中卷に大倭根子日子賦

斗迹命

孝靈天皇之御子日子刺肩別命。豊國國前巨祖。龜山隨筆

皇紀よ見え多る。菟名手ハ日子刺
肩別命の後なるべしとあり。國造本紀よ志賀高穴穗

朝御世吉備臣同祖吉備部命六世年依自命定賜國前國造

森春樹云古事記を按ずるに孝靈天皇御子大吉備津日子
命ハ吉備上道臣祖よして則日子刺有別命の御免なり

命ハ國前國造と云物ハ則國前臣の事よして吉備津
彦命と云れハ日子刺肩別命と云なるべしと云云。垂仁

天皇紀一書よ都怒我阿羅斯等云云所求童女者請于難波

為比賣語曾神且至豐國國前郡云云豐鐘善鳴録五卷よ仁

聞菩薩者八幡大神之應化也云云養老初聞遊化國東六郷

之間開闢二十八所即金剛靈龜報恩神宮水月高山智恩傳

乘兩子天念長安道脇護國黑土無動應曆千燈橫城見地大

嶽岩戸文珠山清淨光靈仙室命成佛行入清岩是也總名曰

六郷山且手自彫刻諸聖之像安諸各處都計六万九千餘蓋

宗法華之品目字數也。仁安三年六郷二十八山本寺目錄よ序分本山

折山報恩寺鞍懸山神宮寺津波戸山水月寺西叡山高山寺

良藥山智恩寺馬城山傳乘寺正宗文中山十箇寺足曳山西

子寺長岩屋山天念寺金剛山長安寺加礼川山道脇寺久未

山護國寺黑土山本松房小岩屋山無動寺大岩屋山應曆寺

補陀落山十燈寺橫城山東光寺流通文未山十箇寺見地山

東光寺大嶽山神宮寺峨眉山文珠仙寺各立山岩戸寺夷山

靈仙寺小城山室命寺龍下山成佛寺參社山行入寺西方山

清淨光寺懸樋山清岩寺本山分未寺辻小野西明寺小溪山

大谷寺西蓮山向戸寺中津尾山觀音寺輓轡山正光寺妙覺

寺海見山來迎寺蓮花山富貴寺清龍寺文傳寺良匠山西山

寺稻積山慈恩寺日野山岩脇寺鳥目山愛敬寺今熊山胎藏

寺光明寺室壽房隨求房中山方未寺大満房付属寺玉井山

光明寺吉水山万福寺多福院光明寺唐溪山弥勒寺毘沙門

多宝院丸小野寺平等寺真覺寺末山分未寺上品寺願成就

寺虚空藏寺淨土寺金剛山報恩寺吉祥寺貴福寺杉山瑠璃

光寺とあり又定額院至目錄よ出々寺院の名とりの中

後山金照寺。鞍懸山鞍馬寺。豆和渡山良日寺。高山養老寺。
藥王寺。真光寺。中巨山天照寺。飛車山轉轡寺。威堂山大日寺。
最初山神皇寺。良敷山内德寺。朝日山光照寺。夕日山安隆寺。
間山十恩寺。稻積山觀世音寺。四野山遍照寺。清龍山龍雲寺。
鏡德山鳥目寺。明王山東照寺。斑龍山清水寺。梅林山東光寺。
大原山林松寺。為父山智恩寺。鼻頭山龍王寺。久未山馬頭寺。
貴龍山養劫寺。赤松山壽福寺。鳳凰山宝殿寺。平等寺。万徳寺。
大聖寺。金剛寺。鬼边。胎藏寺。青蓮寺。卦山觀正寺。興満山興
道寺。安国寺。奈多。神宮寺。宇佐大鏡。國東郡陸拾五煙。
見之多少。是也。古戸處と聞也。

安岐武藏來繩是也。加封拾伍烟。又大田原別府田地町數同前云
半不輸。但町別米丁知八町八段。檜木別府田地町數同前云
云。豊後國六郷山諸勤行共諸堂役諸祭等目錄。注進豊後
國六郷満山谷々別院靈寺靈窟佛神等。將軍家御祈禱卷數
目錄。本山分一後山。岩屋云云。一伊多井社云云。一吉水寺云

云。一津波戸石屋云云。一大折山云云。一鞍懸石屋云云。一高
山寺云云。一尚戸石屋云云。一喜久山云云。一不動石屋云云。
一大日石屋云云。一辻小野寺云云。一大谷寺云云。一智恩寺
云云。惣山。一屋山寺云云。中山分。一長石屋云云。一龍門石屋
云云。一虚空藏石屋云云。一四王石屋云云。一小石屋山云云。
一大石屋云云。一夷石屋云云。一西方寺云云。一千燈山云云。
一五石屋云云。一岩殿石屋云云。一枕石屋云云。一瀧水石屋
云云。一大嶽寺云云。末山分。一兩子寺云云。一小城寺云云。石
於當山靈場。所致御祈禱目錄如此。仍顯密学侶者跪觀音。匠
王宝前関講。一乘典增佛賢密教佛子。若堀八幡尊神六所。擯

現社壇唱神呪脩法味初覺行者學人聞菩薩旧行巡礼一百
余所岩窟偏足兼三道鎮大將軍家御願円満異國降伏聖朝
安穩大施主殿下相摸守平朝臣御息灾延命御壽命長遠御
心中御願円満成就之由祈精之狀如件安貞二年五月日小
寺主法師權部維那大法師部維那大法師權寺主大法師寺
主大法師權上座大法師上座大法師權別當大法師權別當
大法師執行兼權別當大法師六御山衆徒御中又異國降伏
御祈事守關東御教書旨且致慇懃之祈精且可被注申勤行
之次第也仍執達如件弘安七年三月廿五日六御山供備御
中又將軍家御祈願所豐後國六御山異國降伏御祈禱御卷

數目錄本山分後山之云吉水寺之云辻小野寺之云大谷寺
之云中山分屋山之云長石屋之云小石屋之云夷山之云千
燈山之云末山分大嶽寺之云兩子山之云小城山之云右任
關東御教書矣守護所御施行之狀或請六所權現社壇成就
人聞菩薩八幡大菩薩尊靈場滿山住侶各凝一心之精誠勤
修上件經王行法祈精大將軍家御息灾延命御願円満異國
征伐之云如件謹言弘安七年九月日六御山執行法橋円位
裏又豐後國分異國降伏御祈事去月三日關東御教書案如
此任仰下之旨殊致丹誠毎日可致進上卷數候仍執達如件
正應四年三月八日六御山別當執行御中沙弥判文書之六

御離山衆徒等一同謹上。右今度離山之趣、非別子細、譬者當寺務代任職以來、對衆分、徃古旧代無其先蹤、以非例致苛責、被_レ充_レ行不慮之課役、御百姓一分之公役、令勤仕候事、所以者何、今度御屋作并以下為上意之趣、上者、令致随分奔走勤仕申之處、御侍造作以下之費及六十余貫之條、六卿平均段錢催促事、滿山之傷此事、候仍付彼寺務代、雖捧一同之訴狀、未達上聞、結勺重而御屋作御催促、是又雜用可為同前、段錢又同前也。然者衆徒悉以貧道無力之至、家計以難應、微分依之或先規旧例之法會神役等、令陵夷、或元来不退之勤行修学、令廢怠事、是偏寺務代苛政所致也。爰殊以衆徒等、懷愁鬱空

送年月事、當山所々坊領并有限、役田以下更無其罪科、令押妨他郷他所之地、下人等、倒失理由、細之本主事、當寺務代之所為、以外無道也。如此之間、住山無其益之条、令離山候者也。且為上覽、且為無私曲、条退轉堂社坊領之負數、條々注進明鏡也。忝奉仰上意、御賢察之旨、若欲、然任先例、速蒙上裁者、滿山衆徒等、因多幸之眉、弥可致御祈禱之精誠、祈狀之旨、如件。應永十九年己十一月十五日、滿山大法師等、各言上。此文書一通、八千燈村馬場新大齋門と云人所持せり、さて六卿山本末の目錄と云ものよ出あると、鎌倉比の文書とハ、本末の多かひあり、今是を考ふるよ、目錄は、間戸寺を本山、文未寺とし、辻小野寺を中山、分未寺とし、弥山寺を中山、分寺、本寺とし、西方寺を未山、本寺とし、大嶽山を未山、本寺とし、兩子寺を中山、本寺とし、ある、文書のく、よ、間戸寺、本山、分本

寺とし。辻小野寺を本山分本寺とし。又弥山寺を本山分本寺とし。西方寺を中山分本寺とし。又大嶽山を中山本寺ととし。西子寺を末山分本寺とせり。此外文書のうゝはハ大谷寺山城寺と名の見えぬれど。目録のうゝは本寺と見ゆ。未寺も見えぬ。されども。早く本末のみふれハありしや。今おのが記せるハ。志むらく目録のうゝは。順つり。さて此人聞菩薩の事。宇佐宮の旧記と。六郷山の旧記より外見し。多事あるを。委しき事ハ。志むらく。此人遂に宇佐郡御許山花類洞に入て。滅せる由云傳へり。菩薩とりの名ハ。後大也けより送るゆゑ。号なる。夫も多し。ゆゑ。事ハ。志むらく。又六郷山と。六郷所権現を祭れ。此神歌国降伏の功あり。御神も。祭れり。なり。又六郷八山と云ハ。古くより定まら。名とハ。聞えぬれ。国東郡の内にもあり。後山吉水山津波戸山。此三所ハ。豊前国宇佐郡内にもあり。辻小野寺ハ。速見郡内にもあり。豊前六郷山ハ。志むらく。天台宗なるを。中比の兵乱も断絶して再興。及むるも。あり。又宗尚のうゝは。成るも。あり。此郡よりして六郷派を尊へむ。後寺の此宗派と成るも。あり。軍記畧よ。永祿十二年豊後國國東郡烏帽子岳城主古

沢右馬允同郡飛來城主武田津志摩守云云。同書一説大友宗麟大愛田原紹忍紹忍橋慢追日遂對老臣田原親貫無礼及數度親貫大怒俄懷及心。与龍造寺隆信秋月種實等合心。楯籠于國東城。又於同郡佐野鞍掛搆城塙保之。天正八年二月下旬大友宗麟使子息左兵衛督義統討之。其勢都合八千余騎先陣大将宗像掃部助統運大鶴河内守鎮増引卒二千五百余騎。於千部峠之口張屯。於是親貫家人如法寺親武溝部宮内少輔蓋鳥美作守森越中守秋月郎等。坂田市助高橋家僕伊東外記共勢八千余騎。打出于高田金杭云云。隱徳太平卷よ委く見えぬ。豊後志二卷よ引出るを考ふべし。隱徳太平記よ。如法寺ハ。鞍掛城よ遁入り。蓋鳥ハ。吉弘嘉兵衛

討水々々軍記畧々慶長五年國東郡高田城主竹中伊豆

守重隆同郡安岐城主熊谷内藏允同郡飛來城主寛和泉守

云々方々見々々々國埼と國東とかく事ハ又郡大様事ハ

風土記々國埼郡陸所里一十六和名抄々國埼郡武藏來繩國

前由深阿岐津守伊美風土記解々按傳名抄云々津守當入

由深當作田深轉字所致阿岐扶桑畧記作秋國音相通也今

置田原郡甲草地真玉白野香地六莊為六郷六莊又按國田

帳以田原香地二莊為郷合為八郷又別有郡甲真玉草地白野

四莊とあり此説々依て後々津守郷と出々又由深ハ田深

々改て圖田帳々國東郡十六而三十八町武藏郡安岐郡來

繩郡田原郡田深郡伊美郡都甲莊香地郷真玉莊白野莊國

東郡已上十二豊後檢地記々大友家義統國東郡士門司勘

解由源親家田原右馬頭親貫之跡田原民部大輔源親茂田原

守親賢入道紹忍之養吉弘嘉兵衛尉統運奈多左衛門字佐直

子大友義統之弟也基真玉掃部助源統寛古庄右馬助源長方高田伊賀守源正孝

富來雅樂助田深刑部少輔字佐統公都甲左衛門大夫大伊

美伊賀守竹田津右衛門尉大田原備後守源親昌吉廣掃部

助統定富來右馬助永松内藏頭小原考右衛門掛木佐渡守

田原新九郎田深新五右衛門字如法寺山城寺岐部左近大

夫候見新六郎草地伊豆守竹田津伊豆守岐部掃部助吉弘

内藏助源永松若狹守都甲兵部少輔大吉弘勝右衛門永松

勘解由允落太郎次郎河野民部少輔越道置小田原又右衛

門高田美作守源鎮孝田原進士允古庄喜右衛門帶刀伊豆
守岐部山城守古庄甚左衛門後藤因幡守富来權太富来作
右衛門帶刀民部丞吉弘与佐衛門首藤石見守姫島丹後守
藤本傳右衛門河野平次郎錦織土佐守親種権城若狭守大
神惟光小串六郎右衛門大神種口佐藤伊賀守藤原衛藤新
左衛門津島四郎柳木土佐守河野勘五郎曾根崎因幡守濱
田忠左工門岩屋掃部助小田原孫太郎經清太郎重藤小四
郎揆地帳云國東郡高五万四千四百五十三石七升余風土
記解云國埼郡其疆域幅員東北及西皆面海惟南境与速見
郡相接其西南隅与豊前國宇佐郡為界東西七里而遠南北

八而近きとあり帆足氏云國東郡南海に沿ふ地ハ也肥
多れども北方文珠二子等の高山有て境埵の地もて産物
よくなり豊後國中もて瘠地と算ふ所なり

○比賣語曾神社

垂仁天皇紀一書云都怒我阿羅斯等在國之時黄牛負田器
將往田舎黄牛忽失則尋跡覓之留一郡家中時有一老夫曰
汝所求者入於此郡家中然郡公等曰由牛所負物推之必設
殺食若其主覓至則以物償耳即殺食也若問牛直欲得何物
莫望財物欲得郡内祭神云尔俄而郡公等到之曰牛直欲得
何物對如老夫之教其所祭是白石也以白石授牛主因以將

来置于寝中其神石化美麗童女於是阿羅斯等大歡欲合然
阿羅斯等去他所之間童女忽失也阿羅斯等大驚之間已婦
曰童女何處去矣對曰向東方去則尋追求遂遠浮海以入日
本國所求童女者詣于難波為比賣語曾神且至豐國國前郡
復為比賣語曾神並一處祭焉とあり
豊前國風土記云田河
郡鹿春郡昔者新羅國
神自度到來住此河原便即名曰鹿春神とあるも同神と聞
えり白井氏谷川氏等が説き香原神又号比賣語曾神社
と云るも理ハ違へるよありとれど比賣語曾と云名ハ撰
津ヤ豊後とよ限ることありな不委くハ豊前志上卷田河
郡韓國息長大姫大目命神社
件ハ解へるを考ふべし比賣語曾ハ卑咩基楚と訓べし
御名義比賣ハ女神なりば負せり語曾ハいよ思ひ得

比賣語曾神社
式云河内國淡川郡波牟許曾神社丹比郡阿麻美許曾神
社伊勢國菟藝郡大乃己所神社三重郡小許曾神社

也もあ 龜山隨筆云比賣語曾神社ハ國東郡國東御姫島もあ
也さて此島も真戒寺海岸寺とて二寺ありて其間も大虎
八幡社と云あり島民ハ此社を産沙神ハ心得て毎年四月
八日七月七月も祭を行ふ社も甚美ハしとれど比賣語曾神
社ハ彼八幡の末社の如くも成給ひて八幡社の祭序も此
神も祭と云神官ハ江口を姓ともて安岐と云處も在て
祭の時も此島神社ハかく衰給へども島中も姫神の遺跡
と云もの多し又漁人もをべて此神事をいハ思へ
也もありハ不姫島件も云事
をも考合をべし

○奈多八幡社

宇佐宮縁起。天平神護元年十月八日神託曰。昔者吾伊与
國守和郎子利往來乃時。豊後國國埒郡安岐郷。奈多乃濱邊
乃海中仁。大石在利。其仁吾渡著且。息乎安年奈多乃松。本仁
登天。有岐其上。野尔登天可往。幾所々乃案内乎見岐。其野乎
見立野止号久。其与利安岐乃林尔至留とあ。奈多ハ那太
と訓むし。灘の意也。宇佐宮神官小山田家。文書。請取奈多
宮大神寶物。御輿。御馬等事。法躰。御裝束。分御袍一領。五重御
表袴一腰。綾。縮線御裳一腰。三重御袈裟一帖。七條御大口一腰。紅
御帶一筋。櫻色入帷一領。御褌一足。紫白地御扇一枚。
紫薄様御衣一令。黒漆平文依躰御裝束。分御袍一領。五重御半

臂一領。在御下襲一腰。小葵御表袴一腰。縮線御入帷一領。御
帶一筋。紫色御褌一足。白御扇一枚。以薄様平褌。御衣。管一
合。錦折立壁御坐具等。内敷御机帳三内。二、四、小隅面綾裏
隅在同御机帳。惟一枚。同小鏡八面。御簾大鏡六面。同鈎十三。
在御手中打覆。在打敷御燈臺一本。在打敷御枹一本。御
幡十流。在鈴御硯筥一合。黒漆平文納御硯水入墨一挺。木。赤
御小刀一柄。木。赤筆。御櫛篋一合。黒漆平文御手巾篋一
合。細布御倚子御坐三脚。黒漆古御坐三脚。在天井五枚御簾
七枚。錦額帽三枚。赤地御盥三帖。綾王裝束一具。在袍打
帶。納曾利。裝束二具。但無御唐櫃一合。右任先例所請取如件。

度行幸會之時薦旧御驗奉安御炊殿御炊殿旧御驗奉乘本
宮旧神輿奉渡當社と云也神官三家あり一家ハ社備よし
て神宮寺と号も二家ハ社人あり

○櫻八幡社

旧記云國東郡國東御興道寺村櫻宮云云二王門額云聖八
幡櫻宮などあり櫻宮社領八石寺領拾石此外燈明料共合
三十石つりり櫻宮の社地一丁四方あり南向あり神殿ハ
三間社よして銅瓦膏ちり左右の末社若宮住吉也是も同
前より廻廊あり入二間平石鳥居四方よりあり境内より天満
宮彌勒菩薩多宝塔大神宮山王権現社あり六郷山寺院名
簿云國崎御興

道寺村云云鎮守正八幡宮國崎一御之宗廟拜殿神樂屋御
輿屋惣門御供屋廻廊鐘樓若宮末社宮外五社云云社領高

八石境内一正面馬場筋八丁許あり横筋四丁許あり前より

二王門あり祭礼ハ六月廿九日十月十三日あり西度共

は濱頓宮より御幸あり頓宮ハ本社より四丁東よりあり國東

御三十三村ハ此社の産子なり神官數十家あり社備三坊
社家二十

軒許別當職を興道寺と云天台宗あり赤院二坊あり神職ハ成佛

村櫻木淡路守岩屋村松本佐渡守同村櫻木遠江守是を上

官と云元祿の記云社人四十九人とあり此處初ハ安國寺
村城主田原常陸介の領地あり故云田原氏より社

領寄附あり是より依て今の杵築城主より神田の寄附あり

文字なり社地ハ平地よりあり高くて林内よりあり社の
こよありを一村土地をべて志ありめぐらし處なり真

道寺の事ハ次巻ニ
委クイハベシ

○高田若宮社

高田若宮八幡宮神官惣訃状云云去秋之比再曾以裁判
右之神領吉成各之事不残一粒所候中々云云岐部勘解
由兵衛尉堀右京亮為人躰被取懸候御社領歴々放火御鉾
以下燒失候其外近村隣家財物牛馬迄引被引取候併依神
慮社家一人茂不被討果候云云御垂跡已來之趣銘々可申
上候此等之儀可然之様御取合奉頼候恐惶謹言元龜二
八月六日陣道役清末仁三郎定安本社一殿御劔役成安孫
太郎賢次二殿御劔役為成次郎左衛門次安三殿御劔役光

成三郎左衛門經安當社一殿御劔役正行弥左衛門秀光二
殿御劔役久次五郎兵衛定重三殿御劔役弘元龜千代四殿
御劔役次郎九五郎右衛門秀実御かせの役香万次郎太郎
景道御かせの役近時三郎左衛門吉正御供所行成清左衛
門賢吉社司濱檢校吉成伊豆守賢安此訃状のひう今も
高田社に傳はれり又
文書に帶刀安藝守領地近日押妨之仁有之由其間候之
條令披露候之趣不請其下知一雅意之儀前代未聞之條能
能可相究之段被仰付候然者當即小野庄從十二名調細之
社米為役所被押置候者以其上可被成御前目之通上意
候被得其心聊不可有緩之儀候恐々謹言十一月八日鑑速
判親度判鑑康判親賢判惟教判この外一通あり親貫より
吉成市とあり國東郡郷高田町若宮八幡宮八郷内
廿二箇村の産汝神なり神官廿六家あり多く八高田大宮
町に居住を

司吉成内記。其外小野大園清未行成等。姓あり。末社祇園北
辰金毘羅社あり。神殿ハ西南の向ハ向入り。廻廊石鳥居あり。
馬場ハ西北隅より東南隅神社とよして百間余あり。大
祭ハ十月十五日ハ行ふ。濱頓宮ハ御行あり。社ハ高田町と
の向ハ河あり。社頭林狭く樹木もくや。高田町家數千軒
北ハつきて柴崎町あり。家數五百軒許あり。此辺船の入
處あり。高田北ハつきて廣塩濱あり。近国第一の塩濱
なり。

○伊多井社

安貞二年。六卿山諸勤行目録ハ。本山ハ伊多井社。本尊妙見
大菩薩。年中勤修正月會。正月一日勤之。七節供。毎節。法華問答講同金

剛般若經十二卷讀誦之。今始御祈禱長日金剛般若經三卷。

仁王講一座。金剛壽命經十二卷。各讀之也。云云とあり。伊多

井社ハ田法卿高田佐野村内奥畑と云處ハあり。

○鞆掛權現

安貞二年。六卿山諸勤行目録ハ。本山ハ一鞆掛石屋於權現

御堂前。二季御祭五節供等とあり。鞆掛山ハ 御 村

とあり。今ハ絶て傳へずとも。

○間戸石屋社

六卿山諸勤行目録ハ。本山ハ一間戸石屋云云。於六所權現
御堂前。二季御祭五節供等。今始御祈禱長日藥師經十二卷。

同二王経講一座讀之云云とあり。六所権現ハ神功皇后比
咩大神集別皇子。大葉枝皇子。小葉枝皇子。唯鳥皇女を祭。
さて間戸ハ田茂御□村□あり。委くハ間戸寺件□云を
考へ合□べし。六卿山鎮守社ハ六所権現と云ハ何れハ仲
衰天皇神功皇后應神天皇比賣神仁徳天皇
宇治若郎子此六
座を祭ると云
○西叡山権現
六卿山諸勤行目録ハ高山寺云云。於六所権現御室前。二季
祭五節供等。今始御祈禱長日藥師經十二卷。同仁王講讀之。
云云とあり。弥山より西南ハある高山なり。一山悉く滅亡
せしども。其跡今も嚴重ハのこり。

○大谷山王権現

六卿山諸勤行目録ハ大谷寺云云。於山王御前。二季神樂。六
十一月。今始御祈禱長日觀音經。金剛壽命經。各三卷。讀之。仁王經
一座行之とあり。

○椿八幡社

椿八幡社記略曰。當宮者宇佐八幡宮行幸之靈地也。於是祭
八幡三社。云云。元和二年宇佐行幸會記曰。云云。武藏卿椿宮
峯上兵衛とあり。椿宮ハ國埒郡武藏卿橋村□あり。椿ハ部
よむべし。さて筑前國ハ徳政郡
椿庄椿八幡社と云とのあり。

○屋山権現

六卿山諸勤行目錄。屋山寺云云。於六所權現御室前。每季
一日轉讀大般若會。請僧季別七人。每季百座。仁王會。一夏九
旬不斷供花。二季御祭五節供等。法華問答講一座五問。每八月
日勤轉讀大般若經一部。請僧廿人。法華八講。講僧八人。小立義十問。
豎若注記合十二人。以每年十二月廿三日。一夜勤之。今始御
祈禱長日轉讀大般若一秩。仁王講一座。觀音經三卷。件勤等
滿山硯德畧量撰之。云云。又屋山文書。屋山寺拂菻例川田
敷一所五段。御神田云云。一所壹段。嶽御神田云云。一所壹段
山神田云云。長享三年己酉霜月三日。中。敬白立申大願之
事。源統章志之。一可奉勤仕當山如往古七堂建立之事。付可

專佛祭祀日並勤行。一可奉勤仕。滿山共不違。昔岸造立事。付
月次諸法事。長日勤不可怠慢事。右當山之靈岨者。元正天皇
之御宇。養老二年戊午。仁聞菩薩開闢已來。練行李久。異國降
伏之壇場。天長地久。御願處也。六所權現者。南方元始世界之
教主。八重玄門大士。太郎天童者。大日覺王之後身。惡魔降伏
不動明王之靈驗。八幡大菩薩者。滿山開基之尊主。日域朝廷
之本主。累世明君之曩祖也。為守室祚。為倉生利。顯三身之金
容。挑三所。和光之權。靡給。然而源統章。忝請叡岳。座主之尊命。
被補任當山權別當。成一山之法務。雖然今代者。隨國司命。改
法躰。局生弓馬家。任運於天道。投身於國家。欲退彼暴惡。肆滿

山之佛神三寶傾頭合掌致精誠之立願奉祈冥加然則鏤莊
嚴七宝磨光耀鸞鏡以珠玉奉饗佛閣法僧常住兮无勤行倦
優御宝前嗚呼深點喜感應肝渴望酷深因茲會神愿納受之
咲衆灾拂千里之外就中親君臣之礼仪不失忠孝志者掠傍
輩企非分終訴以惡口訴諸人若若人惡罵口則閉塞之佛語
不忌即時罽終人給要出軍場則如衆星中月光於塙戰場呈
名譽我朝鎮他之領地知行仰願者子孫繁昌兮練績之開榮
花松柏之景迎方春不傾志至神鑒在暗焉哉悅哉伏願者冥
顯加威靈神合力雖於退四方精誠叶冥慮幽玄可成加護者
先一之規端相給而已天正十五年丁亥正月廿日源緯幸敬

白とあり社ハ南向にて寺より一町許上とあり講堂もあ
又南方人家より社まで十八町あり西方より八町社より
敷丁上と上官と云もあり由なり長安寺より半町許上と
一間二間許の社あり
南向なり六所權現太郎天山王同殿におき其前二間
よ一間半の拜殿あり社辺に杉木數千本あり寺より社
登り所石階ハ而余壇ありて切石の幅一尺五寸斗もあ
べし道の廣さ三間斗もありべし

○長石屋權現

六郷山諸勤行目錄云一長石屋云云於六所權現御宝前二
季祭五節供等今始御祈禱長日轉讀大般若經一帙仁王經
一座云云とあり天念寺と並びて西とあり前と谷川あり
○龍門石屋權現

六郷山諸勤行目録よ。一龍門石屋云云。於六所権現御宝前
二季祭五節供等。今始御祈禱。長日觀音經三十三卷。云云と
あり。長石屋の龍門窟と云々。天念寺より東北の岡一丁
許よあり。岩窟よ太師堂二あり。弘法像を安置も。其間よ小
二子と云物あり。東向よして阿弥陀の像あり。人聞の作な
り。云云。此辺よべて大岩の多き處なり。

○黒土石屋権現

六郷山諸勤行目録よ。一黒土石屋云云。於六所権現御宝前
二季祭五節供等。今始御祈禱。長日觀音經卅卷。同千手陀羅
尼卅三及云云とあり。

○小石屋権現

六郷山諸勤行目録よ。一小石屋山云云。於六所権現御宝前。
二季祭五節供。今始御祈禱。長日轉讀。大般若經一帙。藥師經
十二卷。藥行法一座。云云とあり。

○大石屋権現

六郷山諸勤行目録よ。一大石屋云云。於六所権現御宝前。二
季祭五節供等。今始御祈禱。長日觀音經三十三卷。讀之云云
とあり。大石屋村のおくよあり。社ハ應曆寺より西南の
上よあり。

○夷石屋社

六郎山諸勤行目録。一夷石屋云云。於六所権現御室前。二
季御祭五節供等。今始御祈禱。長日轉讀大般若經一帙。同仁
王講一座云云とあり。當山別當靈仙寺。延享二年十月。東叡
山。栗田口兩所。口書上云云。鎮守六所権現宮。此境内御除地。
一段七畝拾步云云とあり。社ハ南向よりして。入三間。横二間
半。但石屋有り。別當靈仙寺社
人板井但馬社前より大杉二十許あり。無動
寺。又杵舟方へ越る道も有り。講堂あり。社との間五間許
あり。其間より聖徳太子社あり。権現も講堂も皆岩窟より作ら
けり。権現ハことより前方より拜所を造るのよりして。石の
おくり入事三間許あり。元をよりて堂を
造れりといふ此處の諸社講堂

ハ他方より依て造營せず。境内より杉山有り。是を資として造
營も由なり。六所権現夷社ともいふ。神体ハかりうぬなり
と云。夷社と云ハ。権現より三丁東谷のおくりあり。岩壁の
傍よりつらりと入り。石階石三丁段をかりのりて。
上より夷社あり。東より向入り。社ハ一間四方許よりして。南傍より
阿弥陀堂あり。是より大杉ハ同し。又北傍より四神社とあり。
又夷社前より五圍許の大杉多てり。大岩の上より生る水は。め
づらし。夷社あり。依て夷村といふ由なり。是より靈仙寺
までくまの岡。谷の左右より岩形の奇あり。事言語の心
多し。是より下南側ハより三間五間。或十間許よりして。高
さ十間十五間。或二十三十間よりして。北側ハ只三十間。或
四五十間よりして。大岩のまよりして。北の奇あり。是よりハ及
まぎ。南北の岡長谷よりして。いさ。川あり。是より
西方四五丁よりして。川會の處より。権現願宮の地あり。北向
なり。左右より未社あり。古松など。ちて甚ふる。めかし。かり
との石鳥居。其外舞臺の如くなる。物もあり。

○西方寺権現社

六御山諸勤行目録よ。一西方寺云々。於六所權現御室前。二季祭五節供等。今始御祈禱仁王講一座。觀音經三卷云々とあり。當津内。西方寺村よあり。杵築より權現よ寄附。七段六畝。二十二歩半。高貳石三斗。合。別當清浄光寺なり。講堂より東方少し上よ六所權現社あり。此社西方寺村の産沙神あり。南方よして神殿一間。四方。拜殿一間半。横二間なり。石鳥居あり。講堂の前より石二玉二ヶ所よあり。正月五日よ鬼會を行ふ。

○千燈山石屋權現

六御山諸勤行目録よ。一千燈山石屋云々。於六所權現御室

前二季御祭五節供等。今始御祈禱。長田轉讀。大般若一帙。仁王講一座。觀音經三十三卷とあり。杵築領なり。六所權現よ杵築より寄附。畑高二石八斗余。外よ社の藪免地あり。千燈寺村よあり。麓より丁登りて社あり。石鳥居内よ別當千燈寺あり。社ハ南向なり。窟よ神殿を造。かけあり。社より一二町下よ講堂あり。泥壁よて前よ一間の口あり。

○大嶽權現社

六御山諸勤行目録よ。一大嶽寺云々。豊後國之鎮守也。云々於六所權現御室前。二季御祭五節供等。妙見祭今始御祈禱。長田藥師經十二卷。觀音經三十三卷。仁王講一座。弘安七年

異國降伏御祈禱卷數目錄。末山分大嶽寺豊後國鎮守奉
勤修。七ケ日不動行法。月。奉勤修七ケ日。如意輪行法。月。奉講
讀仁王般若經一石座。奉讀誦壽命經一千卷。一日一夜御神
樂。月。とあり。國崎御横手村に在て。杵築領なり。別當神宮寺
ハ社より下ニあり。社ハ東向なり。昔ハ絶頂ニ有リト云
上宮も今ハ下ニあり。テ権現のむかひの山ニあり。是も東
向なり。村人家より権現まで。西北ニ登リ事八丁なり。山林
あり岩壁多し。六所宮の前。北。方。空。塔。あり。座。より。高。一丈二尺あり。銘文。右志。趣。若。為。天下。太平。万民安寧。當山。繁昌。所願成就。乃至法界。平等。利益也。建武五年八月。四。造立。若良法。敬白。とあり。建武ハ建久。文字も。大宮司。女宮司。と云。此社。正月。七日。夜。鬼。會。あり。又。此社。より。つけ。大宮司。女宮司。と云。此社。正月。七日。夜。鬼。會。あり。又。此社。より。つけ。

○両子山権現
六所山諸勤行目錄。一。両子山云々。於六所権現御室前。二
季祭五節供。今始御祈禱。長。四。大般若一部。同仁王講一座。同
觀音經三十三卷。同護摩藥師經十二卷。金剛般若經三卷。と
あり。此社ハ武蔵郡二子村ニあり。別當を二子寺と云。寺ニ
リ西北の谷一丁半斗ニ講堂あり。西南。向。ニ。堂。ニ。並。び。て。山。王。社。あり。東南。の。向。ニ。講堂。下。ニ。十六。善神。稻荷。社。あり。講堂。より。上。岩屋。まで。一丁半。あり。石屋。辺。林木。茂。き。と。む。遠方。より。ハ。見え。ぬ。岩窟。ハ。東。ニ。向。へ。リ。六所。権現。觀音。の。兩所。一窟。な

六所山諸勤行目錄。一。両子山云々。於六所権現御室前。二
季祭五節供。今始御祈禱。長。四。大般若一部。同仁王講一座。同
觀音經三十三卷。同護摩藥師經十二卷。金剛般若經三卷。と
あり。此社ハ武蔵郡二子村ニあり。別當を二子寺と云。寺ニ
リ西北の谷一丁半斗ニ講堂あり。西南。向。ニ。堂。ニ。並。び。て。山。王。社。あり。東南。の。向。ニ。講堂。下。ニ。十六。善神。稻荷。社。あり。講堂。より。上。岩屋。まで。一丁半。あり。石屋。辺。林木。茂。き。と。む。遠方。より。ハ。見え。ぬ。岩窟。ハ。東。ニ。向。へ。リ。六所。権現。觀音。の。兩所。一窟。な

近年火災よて屋宇なり。西子寺より六丁（西子寺あり。甚峻なる處より）上る。金
其さ近江国坂本の八王子社（社よりことなる）なり。社ハ三間四
方なり。講堂ハ五間四面むかりなり。西子寺件（件より委く）
云べ

○小城権現社

六郷山諸勤行目録より。一小城寺云々。於六所権現御宝前。二
季祭五節供等。今始御祈禱。長四仁王講一座。長四觀音經三
十三卷云々。弘安七年。將軍家御祈禱卷數目録より。小城山奉
勤修七ケ日不動行法。毎奉轉讀大般若經一部。毎奉講仁王
經一百座。毎奉讀誦觀世音經一千卷。奉誦尊勝陀羅尼。各千
千手陀羅尼云々とあり。

○波枕権現社

六郷山定額院主目録より。竹田津波枕山権現宮。鬼籠山普門
寺院主千燈寺徒三房とあり。普門寺ハ公領鬼籠村（あり）
御免畑八畝十五歩あり。

○伊美八幡社

六郷山定額院主目録より。正八幡宮伊美崎権現。此所六郷山
六郷権現六化。聖人六果。玉躰而御誕生所。母屋。娘島。多度
海而大多八幡号之。天明年中六郷山寺院名簿より。新涯村山
眉宮山万徳寺云々。一鎮守別宮八幡大菩薩。祭礼六度。社領
田七段。志畝十三歩。半高十石七合二勺。藪坪二段。四畝とあり。
又伊美平寺。伊美万徳寺。神宮寺也とあり。
あり。伊美八幡と云々。考ふべし。

○來浦八幡社

六郎山定額院主目錄。來浦八幡廿五井。治地山大聖寺同
金剛寺。小熊毛大熊毛山王。鬼邊胎藏寺。有天大將軍宮同青蓮寺。千
燈徒とあり。国東郡來浦村とあり。

○伊美崎權現

六郎山定額院主目錄。伊美崎權現云云。天明年中六郎山
寺院名簿。新涯村岩宮山万徳寺。山門未公領云云。一伊美崎權
現叢坪貳段末社七云云とあり。祭神詳なり。

○今井山王社

六郎山定額院主目錄。今井石屋山王廿一社。院主根本院

六郎山定額院主目錄。今井石屋山王廿一社。院主根本院
内大力坊。天明年中六郎山寺院名簿。夷村靈仙寺云云。山
王宮除地壹段六畝二十步。大力坊右山王。官寺今井藥師堂
境内除地一畝とあり。山王社ハ南向として。石鳥居鐘樓石
仁王あり。神敷拜敷舞臺あり。西に夷川流る。後は竹林とこ
しあり。古木有て古めり。處あり。大力坊ハ社より北に南方にあり。小庵あり。
此社ハ古文書數通ありとあり。近江國坂本山王社を勸請とも云也。

○真玉八幡社

鐘銘。豊後國崎郡真玉庄八幡宮鐘者。當社之氏族。徳六村
渡辺助兵衛淨真。嗣子松右門真道。奉寄進之云云。棟札銘文

上棟奉建立。若宮八幡宮社頭一字。大檀那松平市正血吉
公。御武運長久。大願主野村与次兵衛尉幸佐云云。寛文六年
六月吉祥日。云云とあり。真玉庄大村とありて。十村の産汝
神なり。社ハ南向とて。林中とあり。林ハ田畠中とあり。東
西百六間。南北百間とあり。神殿ハ入二間。横二間半。銅
葺なり。渡殿あり。廻廊ハ入一丈とて。横八間あり。左右と
末社あり。神左と山神社。同右と若宮。又弥勒堂あり。東南隅
と鐘樓あり。正面と門あり。左右末社も銅葺なり。其外諸堂ハ瓦葺なり。門前馬
場東西百餘間とて。東入口と鳥居あり。門前と池。島あり。
社内と堀とつゞ廻りせり。又東傍と門あり。此門外と常

舞臺棧敷小屋あり。堀内廻廊の東と神庫あり。廻廊外西表
と神樂殿あり。其前と番屋ありて。晝夜是を守り。祭祀二月
初卯。六月廿九日。九月廿四日。五月なり。廿五日濱頓宮と行
幸あり。即日還御なり。大官司ハ常磐村野上伊織。權大官司
ハ徳六村惣檢校橋本宇内。權大官司徳六村權檢校渡辺外
記。祝詞役常磐村井口丹宮。神樂役大村野上河内。政所庄屋
村土屋氏是等なり。さて此社と付て。五社三佛と云事あり。
五社と云ハ。惠良村。市杵島社。濱村融宮。大村天満宮。金屋村。
致齋宮。常磐村午頭社。次と三佛と云ハ。大村真玉寺。庄屋村
三井寺。常磐村安養寺。是なり。此三寺ハ禪宗なり。

香地八幡社

鳴鐘銘云云とあり。社ハ西向なり。近辺五村の産沙神
て。神殿ハ小板葺なり。北傍ニ若宮社あり。銅ぶきあり。石
鳥居埃又三方ニ門あり。門前ニ石仁王あり。又門前ニ石の
五輪塔四つあり。門前鐘樓あり。祭祀ハ六月廿九日。九月十四日ニ執行も。
九月祭ニ神幸あり。神官十二人あり。其内ニ大官司和
泉と号。

飽浦

万葉集七巻ニ。羈旅歌。柿本朝臣人麻呂。人麻呂ぬし筑紫ニ

三巻の詞書
よ見え多し。

網引為海子哉見飽浦清荒磯見来吾

とあり。飽浦ハ阿岐乃宇羅とよむべし。名義いさむ考へも。

和名枚。筑前国宗像郡秋阿岐など。其外諸国ニ多し地名

ハ。白杵郡アリテ當国海部郡ニ白杵庄アルガ如シ。帆足氏

ニ安岐ヨリユケバ杵築ハ西ニアリ。スコンハ南ニヨルベシ。

さて扶桑略記 卷ニ。近江守源朝臣信綱子左兵衛尉高信。

四條院嘉禎元年戊戌。配于豊後国秋浦。軍記略ニ。豊後國

東郡安岐城之地形。南北長連。東方海也。東北。岩石高峻。如立

屏風。西方山高。其間有堀。云云とあり。ハ雲御抄ニ。ありハ

誤なり。又夫木集の奇ニ。掲ニ。見えむなり。ゆく紅葉のよ
まりや秋のよなと。なるらむと。あるを。風帆藻と云ふのよ。
秋。湊豊後。故とも云ふ。かど。此歌ハ名。又豊國紀行ニ。國東
處をよめるとも聞えむ。

郡高田より六里北より也。けむ。富来なり。富来より三里東よりけむ。安岐なり。安岐より三里東よりけむ。木付町なり。神洞隨筆より國東郡秋浦人家三百軒許あり。湊ハ北より向ひて。諸國船の泊處なり。なやあり。な不阿岐郡件と考ふべし。

○伊美郷

和名抄より國埼郡伊美郷あり。伊美ハ怡未と訓べし。名義ハ風土記より國埼郡伊美郷同天皇在此村。敕曰。此國道路遙遠。山谷阻殊。一本ハ阻隔。往還踈稀。乃得比見國。一本ハ比字。因曰國見村。今謂伊美郷。其訛也とあり。風土記解より此郷地形実如本文とあり。さて東鑑四十卷より云云。日田四郎跡。伊美太兵衛尉。圖田帳より國東郡伊美郷

七十町。一本ハ十町。宇佐弥勒寺領地頭。御家人伊美兵衛次郎永

久。法名道應。首書より大友。姓氏録有日田之家族大藏。永久。後太平記卅五卷。門司合よ。

豊後國住人伊美彈正左衛門尉統正などあり。又帳首書より

伊美郷郡北より在て今十二村をそふとあり。

○武蔵郷

和名抄より國埼郡武蔵郷あり。武蔵ハ年佐之とよむべし。東海

道武蔵年佐之。名義ハ龜山隨筆より武蔵郷ハ國造本紀より見

えより國前國造年佐自命の御名より因て。負せしりと聞ゆ

とあり。此説ともあるべし。蔵ハとガウの二音なるを。サ

濁音より轉倒あれども。清濁を上下より取替て。さて宇佐大鏡

2. 國東郡武藏郷田數三百五十町。佃二町。用作十三町七段
云云。圖田帳。國東郡武藏郷三百町。宇佐宮領。領主神官各
主等。本郷二百五十四町八段。地頭職大友兵庫入道。久吉
名十六町。重藤名八町。同人池内永吉名二十一町。地頭職忠
左衛門尉惟景跡。首書。惟景者大神氏而佐伯
氏族。左衛門惟定之孫也。當知行木工
助三郎景光。法名道念。首書。佐伯惟
之子。惟景次惟氏次惟光云云。帳首書。武藏郷
郡。在。今四十餘村をもふなり。善鳴録二卷。
丹州永澤寺通幻禪師諱寂靈。姓藤氏。豊後州國東郡武藏郷
人也。母初禱佛神求聖子云云。文和の比
の人なり。
○来繩郷

和名抄。國埼郡来繩郷あり。来繩ハ支奈波と訓べし。名義
い字。考へも。阿波國三好郡三繩
美奈波なり。さて宇佐大鏡。國東郡
木繩郷。田數三百五十町。佃四十六段。用作十一町九段云云。
圖田帳。國東郡来繩郷三百町。宇佐宮領。本郷并餘名二而
七十七町。郷司来繩妙性坊。智恩寺院主。榮範。神官名主等。各
分領難存。知久吉。九町。地頭職大炊三郎藏人。能泰。法名道
善。首
書。大友家乘云。能泰者大友親秀
之三男。号野津三郎藏人。法名道善。久未。五町。地頭職小田原
弥次郎頼景。首書。大友家。且頼景
藤原氏。古莊黨之族也。帳首書。来繩郷。郡。西
に在。二十一村をもふなり。

○國前郷

和名抄。國埼郡國前郷あり。古に郡家を置れし處なり。
一して圖田帳。國東郡國東郷三町。領家松殿二位中
將御跡地頭職信濃伊勢入道殿。帳首書。國東郷八郡東北
に在て。今三十三村をふむあり。

○田深郷

和名抄。國埼郡田深郷あり。田深ハ多志牟ともむべし。
行程細見記。名義いまだ考得む。出雲風土記。島根郡手
田深と書り。命詔。此国者丁寧所造。国在詔而故丁寧負給。
而今人猶誤謂手深郷之耳と云事あり。さて宇佐大鏡
に。豊後國田深莊。四至田數。佃一町。用作四町一段。圖田帳。
國東郡田深郷九十餘町。宇佐宮領。本郷四十二町。領主大蔵

卿法眼有寛名跡。首書。大神。植田系。圖云。植田八郎有綱之
五男有豪。靈山執行有豪。子有寛。其子有季。

小田原五郎景泰。法名。相傳之由申論之。吉丸名二十一町。名
為佛。

越尾張入道殿。首書。大友系。因能直
之女名越。越中守室。糸永名三十町。肥前國

御家人曾祢埜淡路。法橋慶増。攝米浦十五町。地頭職大炊判

官次郎親基。首書。大友親秀之七男。判官代親
泰者。田北氏之祖也。親泰之子親基。同三郎親氏。

大田原別府十五町。小田原次郎重直。法名。道佛。帳首書。田深郷

八郡南に在て。今三十三村をふむあり。善鳴録一卷。圓

籠禪師。諱昭覺。豊後州田深郷人。俗姓大神。父曰惟將。云云。曆

應初還故里。躋豊前大巖窟云云。豊国紀行。高田より木付
の岡。ハ馬取。山中を

通。其岡田深と云村あり。高田より三里あり。田深より
木付。ハ四里半あり。田深より東。ハ半里斗行て。道の西の傍

河の石とあり。大岩十五六斗つちあり。其高さ十間餘
あり。或ハ八九間あり。奇觀なり。羅漢寺の前ある大岩より
り。其外よりやうの珎り。岩おれあり。其所をさる山とい
ふ。夫より南、方より山をこしゆく。道さがく坂長し。東南
のうへより山を登り、半里斗りて、嶺より木付のうへ
下の事一里半あり。此坂をまわると、峠あり。坂より田添
のうへよりあり。

○阿岐郷

和名抄に國埜郡阿岐郷あり。又宇佐大鏡に國東郡安岐郷
田數三百五十町。佃二町四段。用作十二町云云。圖田帳に國
東郡安岐郷三百町。一本二宇佐宮領。餘名三十六町。領主神
官名主等并府十町。地頭御家人日田弥三郎永基。法名弘永
名三十町。同人成久名三十七町。相摸七郎母御前辻殿。朝来

野浦十四町。地頭御家人朝来弥三郎公平。同次郎公継。守江

浦三町。戸次太郎時親。法名道惠。首書に大友系圖。時親者

也。時頼加冠。讓時。字鎮西。評定衆也。戸次氏之祖者重秀

也。戸次莊九十町。速見内七十町。國東内守江三町。帳首書

に安岐郷八郡。東南に在り。今三十一村をもふくむあり。徳

太平記四十二卷に永禄十二年大友勢立花山後詰件に豊

後秋車山城主秋友式部少輔秋之郎京留城主矢坂甚太郎

と云人見

○田原郷

圖田帳に國東郡田原郷六十町。宇佐宮領。本郷四十町。本守
護所。豊前大炊助。首書に大友親秀。入道。女子持明院
別當之後室之跡。而豊前六郎藏人泰廣。首書に田原家譜云

十二男号中務女輔左近藏人。或号借上質券。或買得相傳之
由申處。辻殿雜掌論之。小野一万名十町。伊賀国住人八十島
左衛門太郎頼忠為私領。六郎藏人春廣借上之とあり。田原
ハ。多波良と訓べし。和名抄。山城国綴喜郡。田原。多八良ともあり。名義いまお
とひ得也。田地の廣き處。むとよて。頁せり。あり。出雲。さて帳。風土記。島根郡。田原神社と云りあり。
首書。田原郷ハ。後世莊と也。郡。西南に在て。今十二村を
ふとあり。

○都甲莊

圖田帳。國東郡都甲莊七十町。宇佐弥勤寺領。地頭都甲左
衛門入道西迎跡。子息五郎左衛門惟近相續。法名寂妙。首書。大友家。臣。

姓氏錄。有大神。惟近。按大神系。因不詳。何流。按阿南系。因庶流
之中。有惟近者。嘉正中。比之人也。惟房者。其父是西迎。故佐伯
系。因庶流。亦有惟近者。佐伯弥
四郎。惟直之從弟。弘安。比之人也。舍兄四郎左衛門惟信。依無足

參守護奉公。云云とあり。都甲ハ。都加波と訓べし。甲を加波

例ハ。和名抄。相摸国愛甲。阿加波とあり。なごなり。さて此
都甲と。今ハトカフと唱ふ。由なり。ツをト。轉唱ふ。ハ。
例多き事なり。又古カハと唱へ。今カフと唱ふ。ハ。
ことハ。和名抄。肥後国合志。加波志とあり。今カフと
唱ふ。ハ。類名。名義ハ。いませ思ひ得也。和名抄。石見国。邑知。郡。都賀。都加波。など。

又。さて帳。首書。都甲莊ハ。郡。中央に在て。今九村をふと
あり。善鳴録二卷。豊後州梅遊寺。天察禪師。諱宗補。姓越智

本州都甲莊人。享和武鑑三卷。都甲姓あり。

○香地郷

圖田帳。國東郡香地郷六十町。領家ノ名ヲモラセリ。地頭
川越安藝前司とあり。香地ハ。加加治とよむべし。香ハカウ
ノニ香ナ
るカガノ假テ。それを又カバノ轉用多クナリ。和名扱ニ。
備前國和氣郡香止。加加止ナト見エ多ク。

名義いよぶ思ひ得む。さて帳首書。香地郷ハ。郡西北ニ在
テ。今十二村一説ハ十八村をもぶとあり。又香地村あり。かさねて思ふ
トコロト云意。よて地字ハ書々むを。それを字音のやう
唱へ来多れ。よてもあるべし。小早川季秋家且。香地七
郎右衛門と云人。有し由物。見え
あり。此郷より出多。姓なよべし。

○真玉荘

圖田帳。國東郡真玉荘七十町。宇佐弥勒寺領。地頭御家人
真玉左衛門次郎惟重跡。嫡子又次郎惟有。法名願信。○首書
惟重惟有若大

神氏也。大友家且。姓氏録。真玉氏之譜。系不詳。按大
神系圖。繼方惟榮之三男。惟友。五世有。惟重。首。是故。大貳坊寛

秀五郎惟村。各知行之處。豊前大炊入道殿跡。六郎太郎能重

諭之。首書。木付系圖云。親秀之六男。号。木付大
炊六郎親重。其子号。阿波守大炊助能重。とあり。真玉

ハ。万多。万とよむべし。名義ハ玉。由有。て。負せ多。よべし。さ
て帳首書。真玉。荘ハ。郡北ニ在。今十四村をもぶとあり。

○草地荘

圖田帳。國東郡草地荘廿五町。宇佐弥勒寺領。地頭職大友
兵庫入道殿。竹田津世町。コハ。ニ竹田津トアルハ。混入シタ
ルモ。ア領主竹田津兵衛允惟永。法名連佛。○首書。竹田津
之庶流也。とあり。草地ハ。久佐知とよむべし。名義いよぶ考
系圖不詳。

へぞ。只も草の多^キ處と云意よてもある。又地ハ市の意よてもあるむ。此国よ何市と云名殊さふ多し。市の意の意なり。上の香地ハカバヒイチのつらやう多し。是の書ハもて近^キ世の志と云はれハ名義を深く考へむ。あたさき事なぐ。今ハくせよ成て打もてかしくむ。さて帳首書よ。草地莊ハ郡西よ在て。今七村をそふとあり。

○白野莊

圖田帳よ。國東郡白野莊廿五町。宇佐弥勒寺領。領家所司等有名數人。岐部浦十五町。領主岐部三郎成未。法名岡妙。首書よ。按大友家。巨姓氏録紀氏系譜未詳。常足按もよ。海東諸国記よ。茂実。成子。年遣使来朝。書称豊後州守護代官木部山城守茂実。以宗。貞国請接待とあり。茂実。姫島云云とあり。白野ハ。宇須乃ハ。此成未の後なるべき。姫島云云とあり。白野ハ。宇須乃

と訓べし。名義ハ。白よ由ありて負せある。日向志上巻白。さて帳首書よ。白野莊ハ香地郷南よ在て。今十四村をそふとあり。永祿の比よ大友家の足輕將よ。岐部武藏守と云也。あり。岐部姫島ともよ。今ハ國東郷よつけるよ。なり。

○姫島

鎮西要略一卷よ。元明天皇和銅二年。豊後國人。河辺官人見。瑞女屍外島。是姫島之起也。往昔譽田天皇御時。新羅國女神。遁其男云云。圖田帳よ。國東郡白野莊姫島三町。弥勒寺領。寺家之所司等とあり。姫島ハ。比賣志万とよむべし。名義ハ。比賣語曾神の座處なるよ。因て負せよ。なり。攝津風土記よ。比賣島。松原者。

昔輕島豐阿岐羅官御宇天皇之世新羅國有女神遁去其夫
來暫住筑紫國伊岐比賣島乃曰此島昔猶不足遠若居此島
男神尋來乃更遷來停此島故取本所住之地名以為島名と
あり是は因て考ふれば比賣語曾神ハ筑前姫島より豊前
香春次は豊後姫島次は難波姫島と次茅よりつりませり
と聞ゆはさて比賣語曾神事ハ垂仁天皇紀に見え摂津風土
記なるハ輕島豐阿岐羅官とあるハ時代の多うひあれど
り故事ハ全く一事よりして時代を異よ語傳べらるものと
聞ゆは不比賣語曾さて各處方角抄ハ豊後國姫嶋ハ北浦
神件をも考べし

辺と云處より東に見えて遙に沖なり松などあり後太平記一卷

應安元年云云大友刑部大輔氏時注説の早馬來多りて
曰菊池肥後守武光九國二島の官軍六万餘騎を引率し去
月廿日當國鶴崎浦より打いで是より船を催して京都に攻
上りむと議を氏時密に是を聞て豊後豊前兩國津々浦々
大小船とも悉く押取て姫島荒島へ漕渡して候得ハ菊池便
を失ひ直に長門に云云隱徳太平記四十二卷に永禄十二
年大友勢立花後詰件より豊國紀行ハ國東郡竹田津より
島入道三浦など見え多り

姫島は三里あり又姫島ハ各處なり此島周三里許田島高四
石あり姫島より周防國祝島ハ八里あり龜山隨筆ハ姫島
ハ國東郡國東郡岐部の北海一里ハあり小倉赤馬関等を
出て船より上方に登るの心見の島なるが島山の形より
はしく面白く處なりとあり同隨筆ハ國東郡及近郡の人
は若多し此島より古事記と記さるる多し陸地の
民ハ異なる事多しと云とありさて此龜山隨筆と云ハこ
ろ多おのが此書造るにつけて豊後國日田郡人
森春木と云人の書送き説きなり

○富来城

仙巢稿下卷ハ秋九月居士如水軒率一万騎兵赴豊後立石
一戦生擒大友義統誅戮其黨兵安喜富来兩城圍其勢脱甲

弛弦以降矣居士唱凱歌歸豊前とあり富来ハ等比俱と訓

ハ能登方さて軍記ニ永禄十二年豊後國國崎郡飛来城主

武田志摩守云云慶長五年國崎郡飛来城主寛和泉守云云

なとあり委くハ二卷ニ引出多り飛来城ハ安岐城の西北

三里ヨあり海ニ近し富来城主垣見和泉守家純ガ兄垣見

理右衛門ガ嫡子ナリ理右衛門初信長公ニ任テ後浪人

由ニ関原合戦の時留守和泉守秀吉公ニ任テ後浪人

門を召出シて百人扶持をよふ其時名を理入と改む理右

衛門初尾州飯尾氏の養子とナリ其子太郎右衛門ハ立身の志

後ハ本姓を名のり其子太郎右衛門ハ立身の志あり又浮

田秀家ニ仕テ五千石を領シ関原合戦ニ働かれとも浮

領して大頭となり肥前國島原一揆退治の時深手を負て

没時七十一歳なり此時ハ飯尾甚太夫といへり九月

黒田如水軒豊後ニ打越テ富来城を攻り先富来海辺

は伊豫讃岐ニ船軍ニ馴多り其のともを抱置テ海上

通路を塞けり有川助兵衛尉伊集院左京が乗多り船

艘類船ニ後れて九月廿六日夜富来の前を通りけり富

来近く漕せしむるが夜明テ後大驚きていそぎ梶を

取直し沖方ニ漕出をも見て番船より父田弥左衛門磯野

五郎左衛門野向源一四人船ヲ取乘テ追掛れバ野島若

も我も我もと押寄けり島津方ニは女の衆多り船なれ

又船軍法として適宜と思ひ空樽ニ降参と書テ海ニ浮

知を中ありけり頻々押寄テ鉄炮を打ちし大ニ戦ひける

が。番船より船若火を付て。頻々投掛れば。島津勢皆船
上より出て。或戦死す。或をりこたせりて。船ハ海底に沈ぬ。
廿七日辰刻より軍始まりて。申中刻。佐賀関の前より終
る。野島若し。此由如水軒の言上。如く。如水軒此由を
聞て。島津當時ハ内府公の怨敵。女を乗せし。船な
れ。降参を請は同心をも。生捕。なば。入質とも。なすべし。
多とひ討漏し。其上身方も多く討る。事無益の働なりとて。
の命を多し。其上手方も多く討る。事無益の働なりとて。
無興せられれば。時よ取て。勇なる。石川十左衛門。宮田与
手頭。松本吉右衛門。を初。庄林七兵衛。石川十左衛門。宮田与
次兵衛。浦上新兵衛。磯村市兵衛。加藤源三郎。高原次郎兵衛。
三宅藤五郎。野間又六。同五兵衛。高瀬又九。衛門守。よは。世治
て。後。恩賞を行ハれ。けり。と。か。や。と。見。え。多。り。さ。て。豊。国。紀。行
よ。國。東。郡。高。田。隣。村。よ。柴。崎。と。云。處。あり。小。川。を。隔。て。高。田。よ
近し。昔より此處の。柴崎。と。云。處。あり。小。川。を。隔。て。高。田。よ
月。下。旬。より。出。て。ち。ひ。さ。さ。石。を。以。打。合。事。あり。又。五。月。五。日
つ。八。里。の。長。幼。多。く。出。て。川。を。隔。て。つ。ぶ。て。を。打。合。終。り。近
つ。さ。て。組。合。打。伏。な。ど。一。て。疾。を。受。る。も。の。多。し。力。を。盡。し。て
勢。を。振。ひ。對。へ。り。若。を。追。や。る。を。期。と。も。寛。文。の。比。故。あり。て
此。事。ハ。振。ひ。對。へ。り。若。を。追。や。る。を。期。と。も。寛。文。の。比。故。あり。て

○解脱寺

豊鐘善鳴録四卷曰。南谿宗禅師者。本州國東人。童穉薙度于
寔陀寺。壯齒截。溟入。明參諸名德。鑽究宗機。已而東歸。的著豊
州津組浦。師遙瞰山勢。有似支那經山。奇之。下舟縛茆山下。棲
焉。鄉民歸嚮。遂成瀟若。師扁曰。放光山。解脱箇寺。自後國東郡
將請住。定林亡。何還。放光。一日雷雨。有物墮庭。師見其狀。屈攬
向柱杖。物梯之。即騰翌日。有一神人。來揖師曰。昨蒙慈救。何以
酬德。冀師指之。師曰。此山之水。汝共致之。神人唯諾而去。於是
風雨遽至。巖谷震鳴。頃之。寺後湧出一泉。今雷井是也。境有小
池。群蛙喧鳴。師禪宴。次說偈。誡之。蛙即斂聲。自爾無復蛙鳴。と

あは南谿禪師ハ應永十四年ノ没セリ解脱寺ノ事重テ考

ふべし

...

...

...

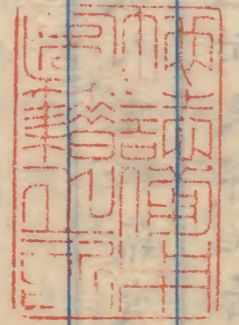
...

...

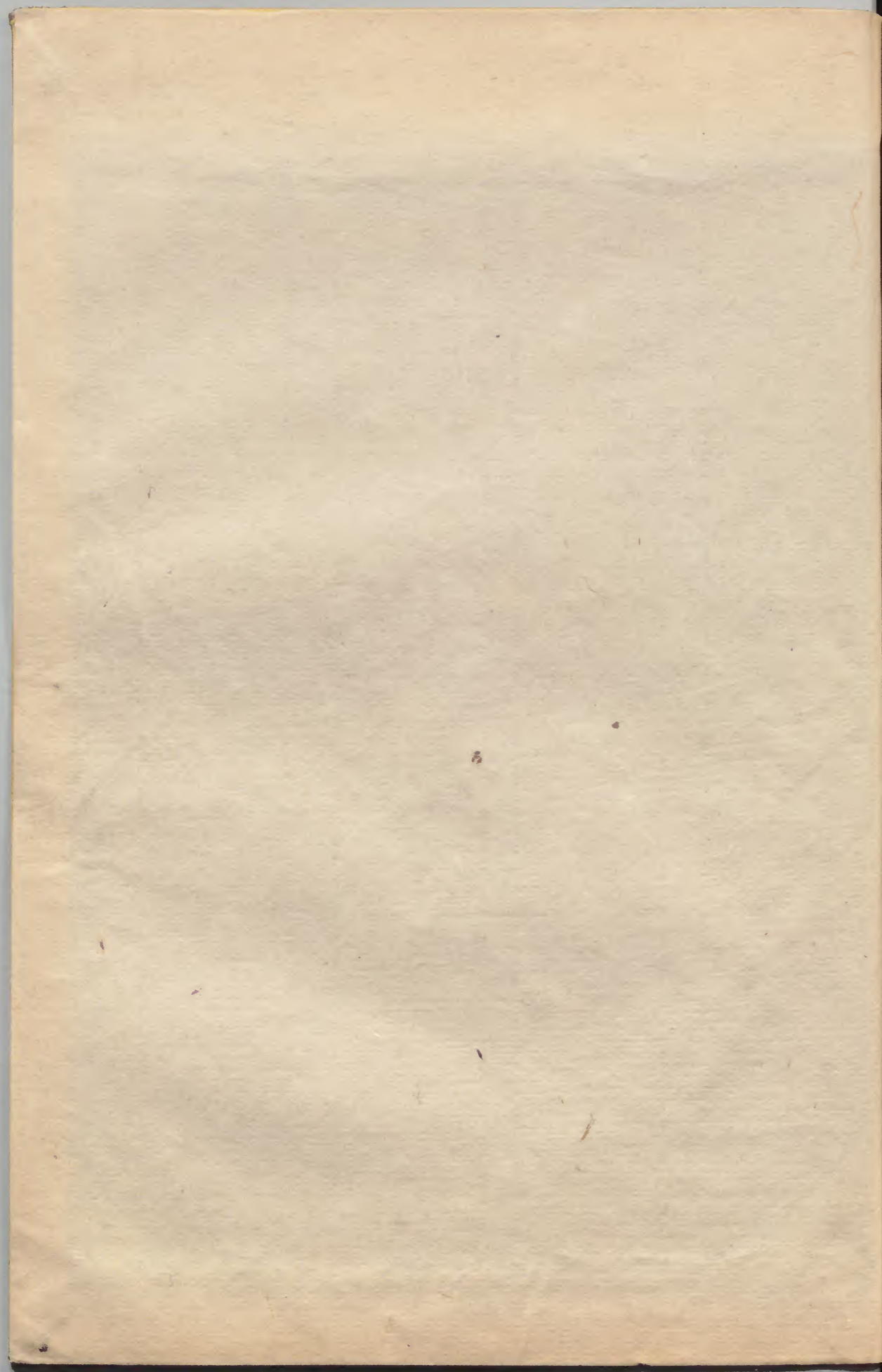
...

...

...



太宰管内志 豊後之八



行	行	行	行	行	行	行	行	行	行
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

